

# 令和7年度 徳島県立しらさぎ中学校経営方針

## 1 本校の教育目標

### (1) めざす学校像

- ① 学び直しの拠点校として、多様な学習機会を提供できる学校
- ② 年齢や国籍などに関係なく、自らの可能性を広げることができる学校
- ③ 生徒が夢と志をもち、可能性に挑戦しようとする力を育むことができる学校
- ④ 偏見や差別をなくし、自他の生命を大切にし、お互いを尊重できる学校

### (2) めざす生徒像

- ① 多様な「まなび」を通して自らの能力やスキルを向上させることができる生徒
- ② 自分の夢や目標達成のため向上心を持って新しいことにチャレンジできる生徒
- ③ 国際理解、人権尊重、他者に対して優しさや思いやりが持てる心豊かな生徒

### (3) めざす教師像

- ① 生徒の学ぶ意欲と熱意に応じて、生徒ファーストで学びの実践ができる教師
- ② 積極的に生徒一人一人と関わりながら、生徒の良さを見つけ・認め・励まし・伸ばす指導ができる教師
- ③ 教師としての誇りと自覚をもち、人間力・授業力・生徒理解力・危機管理能力等、自らの資質・能力の向上に研鑽する教師
- ④ 生徒端末や電子黒板などのICT機器を活用した授業づくりに研修を積む教師

## 2 本年度の重点目標

### (1) 生徒の基礎学力を定着させるとともに、様々な体験活動を充実を図る。

- ① 生徒のニーズに対応した、きめ細やかな授業実践を行う。
- ② 校外活動をはじめ、体験的な活動の充実を図る。

### (2) 幅広い年齢層と様々な国籍の生徒の特色を生かした教育活動を推進する。

様々な年齢層や国籍の生徒が、交流し互いに学び合える機会を提供し、生徒の経験や専門性を生かせる機会を設ける。

### (3) 近隣の学校との交流活動を深め、生徒相互で学び合う関係性を高める。

- ① 中央高校夜間部との交流を深める。
- ② 近隣の学校との交流の機会を作り、積極的に教育活動を発信する。

### (4) 学校と地域の方々と連携・協働し、定期的な情報発信をする。

- ① 各県からの視察や取材を積極的に受け入れ本校の取組を紹介する。
- ② HPを通じて、本校の学校行事などの教育活動を積極的に発信する。

令和7年度 徳島県立しらさぎ中学校 学校評価総括評価表

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策	
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価		
	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び達成度	(評定) A		
(1) ①	<p>①-1 生徒のニーズを確実に把握し、それぞれの目標に応じた授業を展開し、授業満足度を80%以上にする。 (GIGA・学力向上)</p> <p>①-2 授業力の向上や改善を図り、ICT機器を活用するなど、分かる授業を心がけ、授業の内容の理解度を70%以上にする。 (GIGA・学力向上課)</p> <p>①-3 日本語指導の充実を図り、授業満足度を80%以上にする。 (校内研修課)</p> <p>② ②-1 体験的な学習を学期に2回以上実施する。 (キャリア教育課)</p> <p>②-2 魅力のある校外での体験学習を企画し、日程等の工夫を図り、参加率を60%以上にする。 (教務課)</p>	<p>①-1 個人懇談をはじめ、生徒からの聞き取りの機会を定期的に確保するとともにしっかりと情報を共有する。</p> <p>①-2 電子黒板の活用方法など授業研修の機会を設け、ICT活用度を高める。</p> <p>①-3 日本語指導担当教員を中心に、授業内容の検討や工夫を図る。</p> <p>②-1 季節の行事や、徳島の伝統や文化に触れる体験活動を計画的に行う。</p> <p>②-2 生活に生かせるような体験学習を企画するとともに、参加しやすい日程を調整する。</p>	<p>①-1 個人懇談などを中心に聞き取った生徒一人一人の思いや目標を共有し、生徒のニーズに合わせた授業を展開した結果、満足度は前期100%、後期100%を達成した。</p> <p>①-2 電子黒板などICTを積極的に活用して、分かる授業を心がけ実践した結果、理解度は前期、後期ともに100%を達成した。</p> <p>①-3 継続的に研修を行ったり、各教科と連携を図ったりして、授業を工夫して行った結果、満足度87%を達成した。</p> <p>②-1 1学期は校内で藍の葉のたき染めや七夕飾り、校外で阿波おどりを体験した。2学期には校内で正月飾り、校外で大谷焼やお遍路を体験した。</p> <p>②-2 校外での体験学習において、参加率はどちらも75パーセント以上であり、目標を達成できている。</p>	<p>(評定) A</p> <p>----- (所見) 年度初めに、生徒一人一人が目標シートを記入したり、定期的に個人懇談を行うことで、生徒のニーズを把握しやすい状況が作れている。また、チームティーチング等、複数の目で生徒の学習状況を見取ることができているので、それぞれの困り感に寄り添った学習支援ができていると考えられる。今後も全教員が生徒の学びを支えられるよう、スキルアップを目指していきたい。</p>	<p>様々なICT活用により、視覚的にも理解が高まりやすく、生徒の満足度が前期・後期とも100%と非常に高い水準で推移していることは、生徒のニーズに合わせた授業展開や学習支援の取組が確実に成果として表れている。多様な生徒が多い中で、一人一人のニーズに合った教育活動が開かれている。生徒個々の能力・適性に合った指導が開示されている。教職員のスキルアップが充実している。また、各体験学習への参加率も高く、充実度が高いのだと感じられる。</p>	<p>各項目において、比較的高い達成率が出たのは、普段から、教職員のきめ細かく観察し、生徒のニーズに寄り添った授業展開ができていたためと考えられる。引き続き、生徒理解ミーティングや普通の会話を通して、各生徒の状況を把握していきたい。その上で、それぞれのニーズに応えられるように授業の工夫・改善を図り、学習意欲の保持、向上に努めていかなければならないと考えている。行事等の取り組みにおいては、生徒一人一人が今後も徳島で社会生活を送るうえで、支えとなるような体験や喜びを感じられるような経験ができるように、工夫を続けたい。</p>
(2) ①	<p>①-1 様々な年代や国籍の生徒が交流できる行事を学期に1回以上実施する。 (特別活動課・キャリア教育課)</p> <p>①-2 生徒の様々な経験や専門性を生かした行事を学期に1回以上実施する。 (特別活動課・キャリア教育課)</p> <p>①-3 多国籍の生徒が在籍する特色を生かした行事を、学期に1回以上実施する。 (特別活動課・キャリア教育課)</p>	<p>①-1 生徒会と協力しながら、交流できる行事を計画する。</p> <p>①-2 生徒が先生となって経験や専門性を生かして活躍できる機会を作る。</p> <p>①-3 様々な国の文化や生活様式を紹介したり、生徒同士が協働して体験できる機会を作る。</p>	<p>①-1 1・2学期末に生徒会主催の交流会を実施し、語り場やポッチャ大会・ラダーゲッターの大会を開催した。</p> <p>①-2 1学期は「これが私のお気に入り」と題した発表会を実施した。生徒たちは自己紹介にお国自慢や仕事の紹介を盛り込み、各自の持ち味を発揮することができた。</p> <p>①-3 2学期は学習文化発表会を実施した。各教科やクラス、有志の生徒たちが協働し、クイズやゲーム、劇や歌を披露した。</p>	<p>(評定) A</p> <p>----- (所見) これまでの枠組みを維持しつつ、新たな取組を盛り込むことができた。年代・国籍関係なくすべての生徒が楽しむことのできる活動を考えて実践できた。</p>	<p>インクルーシブなスポーツを取り入れ、いろいろな方が参加しやすい工夫がされている。学習文化発表会など、生徒さんたちが積極的に楽しんで参加できる行事があることは、大きな魅力である。取組のねらい・成果を整理し、学びの変容がより伝わる形で発信することが課題である。</p>	<p>いずれの発表会においても、生徒が工夫をこらした発表をすることができた。他の生徒との協働を通して交流を深めることができた。しかし、12月の学習文化発表会は、日本語能力検定の実施時期や仕事の繁忙期と重なり、なかなか練習に参加できない生徒もいた。次年度も生徒の意見を聞きながら、改善に努め、しらさぎ中学校の特色を生かした活動を実施していきたい。</p>

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価	
	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び達成度	(評定) B	中央高校夜間部との交流会を計画的に実施し、生徒が多様な立場や経験に触れる機会を確保している点は高く評価できる。 中央高校や池田高校との交流など多くの人々との交流の機会を持たれており、高校進学への意欲へもつながっていると感じます。 各関係機関との交流を密にすることにより、生徒が主体となった学校生活が実践されている。
(3) ①	①-1 中央高校夜間部との交流会・交流行事を年間に2回以上実施し、交流の満足度を80%以上にする。 (特別活動課)  ①-2 交流会や交流行事を通して、関係が深まったと答える生徒を80%以上にする。 (特別活動課)	①-1 中央高校夜間部と連携を図り、合同で実施できる行事を洗い出す。生徒会と連携して、交流会等の企画を計画的に行う。  ①-2 年代・国籍に関係なく自分の思いや考えを語るができる場を活動に多く取り入れる。	①-1 中央高校夜間部と連携を図り、5月に生徒会主催の交流会を、7月に交通安全教室を実施した。学校生活アンケートの結果、満足度96%を達成した。  ①-2 1・2学期末に生徒会主催の交流会を実施し、語り場やポッチャ大会を開催した。学年や国籍を混合したチーム編成にしたことで、日々の学校生活で生徒同士が対話する機会が増えた。	(評定) B ----- (所見) 中央高校夜間部との連携を継続しながら、各担当が話し合いを進め、合同行事を実施することができた。また、生徒や教職員にとって負担の少ない方法や時期を探りながら、生徒会主催の交流会や、2年ぶりに池田高校定時制とのオンライン交流会を開催することができた。持続可能な活動となるよう、今後もよりよいあり方を模索していきたい。	
②	②-1 近隣の学校との交流を進め、交流の満足度を80%以上にする。 (特別活動課)	②-1 交流する校種にあわせてオンラインを活用したり、作品交流を行うなど、生徒の負担が少なく効果的な交流方法を企画する。	②-1 11月に池田高校定時制とオンライン交流会を実施し、互いに自己紹介や質問を行った。生徒は、好意的な関心の態度で参加し、相互理解を深めていた。		
(4) ①	①-1 県外からの視察や新聞社、放送局からの取材依頼を積極的に受け入れ、本校の教育活動を発信する。 (管理職)	①-1 開校をめざす自治体や夜間中学校への入学を考えている方への一助となるように、4年を終えて、蓄積された本校の教育課程や指導方法の成果と課題を紹介できるようにし、発信の仕方を工夫する。	①-1 今年度は県外の教育委員会や他県夜間中学校をはじめ、起業家の方々の会や徳島市・阿南市の人権の会での講演、映画「35年目のラブレター」での本校説明など、16件の視察等で、開校に向けて効果的であった取組や本校ならではの教育活動を紹介することができた。また、全国夜間中学校研究大会で、日本語指導に関する報告を行い、全国の夜間中学校に本校での成果を発表することができた。	(評定) A ----- (所見) 県内外の視察や取材を積極的に受け入れることで、夜間学級の意義や本校の特色ある取組を多くの方に発信することができた。その結果、昨年に引き続き多数の視察依頼や問合せがあり、全国初の公立夜間中学校としてスタートした本校の役割を少し果たせたと感じている。	県内外からの視察受け入れや他県の先進校の研究視察を通して、他県の取組を知ることができたとともに、本校の教育活動を見直す機会を得ることができた。様々なニーズをもつ生徒一人一人に寄り添った教育活動を行うためには、教育課程の見直しや指導方法の工夫改善がこれからも必要であることも実感できた。 次年度も積極的に視察を受け入れ、全国初の公立夜間中学校として開校した本校の役目を果たしていきたい。また、多くの県民に本校の事を知っていただくよう広報に努めたい。

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評 価	総合評価	
(4) ②	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び達成度	<p>ホームページの定期的な更新によりホームページの閲覧数が現在も大きく伸びている(累計1353万アクセス)。夜間学級での学び直しを考えている方に本校の取組を発信できたと感じている。</p>	<p>HPへのアクセスが1300万件を超えており、しらさぎ中学校への関心の高さを感じる。HPも優しい日本語が多用されていて、とてもわかりやすいページになっている。生徒さんの利用率も高く有益な内容が多く掲載されている様子が伺える。SNS等への配信には十分に気をつけながら情報発信をして欲しい。</p>
	②-1 HPを通じて、本校の学校行事を積極的に発信するとともに、本校生徒にとって有益な情報を発信し、本校生徒のホームページ利用率60%をめざす。(人権教育課)	②-1 個人情報や肖像権などに配慮するとともに、入学を希望する生徒や在校生にとって有益な情報を1ヶ月に10回以上発信する。	②-1 1月9日現在で96回ホームページを更新し、普段の授業風景などを公開した。本校生徒のホームページ利用率は83%(週1回程度35%、月1回程度48%)であった。		
(5) ①  ②	①-1 管理職による教職員面接を年2回以上実施し、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に務める。(管理職)	①-1 教職員との積極的な対話を通し教職員一人一人の理解を深めるとともに、適切な指導・助言に努める。	①-1 管理職による教職員面接を計画的に実施するとともに、適宜、教員との面接を実施した。また、毎日の職員連絡会資料において、各学年の教員で考えたコンプライアンス目標を掲載した。	<p>(評定) B ----- 教員の時間外在校時間については県立学校の目標時間を超える教員はいなかったが、仕事の持ち帰りをしている教員も多くいる。そのため今後も校務負担のバランスや年休の取りやすい雰囲気づくりに努めていきたい。</p>	<p>性暴力等の根絶、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に向けて、今後も計画的な研修を実施するとともに、ワークライフバランスのとれた働き方を推進しすべての教員が心身共に元気に働ける風通しの良い職場環境を作りたい。</p>
	①-2 性暴力等を根絶するための「対策パッケージ」によるセルフチェック、組織チェックを年3回以上実施し、性暴力等を起こさない職場風土や慣習・文化を構築する。(管理職)	①-2 「対策パッケージによる」セルフチェック及び組織チェックをコンプライアンス年間計画に組み込み計画的に適宜・適切な研修を実施する。	①-2 今年度から、性暴力等を根絶するための「対策パッケージ」を学期ごとに実施した。また、夏と冬のeラーニング研修を行い、すべての教員が取り組んだ。		
	② ワークライフバランスのとれた働き方を推進し、教員が心身共に元気に働ける風通しの良い職場環境を作る。(管理職)	② 校務負担のバランスに配慮し、年休の取りやすい雰囲気作りと、定時退勤を心がける。	② 定時退勤をすることの大切さを適宜呼びかけた。また、長期休業期間には、閉庁日を設けて年休の積極的な取得を呼びかけた。その結果、時間外在校時間が月10時間を超える教員はいなかった。		

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった